

# 第1回若手フォーラム ワークショップ<sup>o</sup>1（チーム内交流）

令和7年6月3日

総合ファシリテーター  
山下安信  
株式会社 フードサニテーション78

# 第1回FCP 若手フォーラム

## テーマ：「食」への信頼を創る

### 【目的】

1. FCP（産官学協働のプラットフォーム）の取り組みを知る
2. 参加メンバー全員と交流し、若手フォーラムの魅力（スケールの大きさ）を体感する
3. 参加メンバーとの意見交流の手順を体験する

### 【進行】

- |                  |                  |
|------------------|------------------|
| ワークショップ1（チーム内交流） | 14:40～15:55（75分） |
| ● ワークショップ        | 14:40～15:25      |
| ● チーム発表          | 15:25～15:55      |
| 第2回若手フォーラムについて   | 15:55～16:05（10分） |
| ワークショップ2（チーム間交流） | 16:05～16:55（50分） |
| ● 名刺交換会          |                  |



# 第1回FCP 若手フォーラム

## チームごとの交流

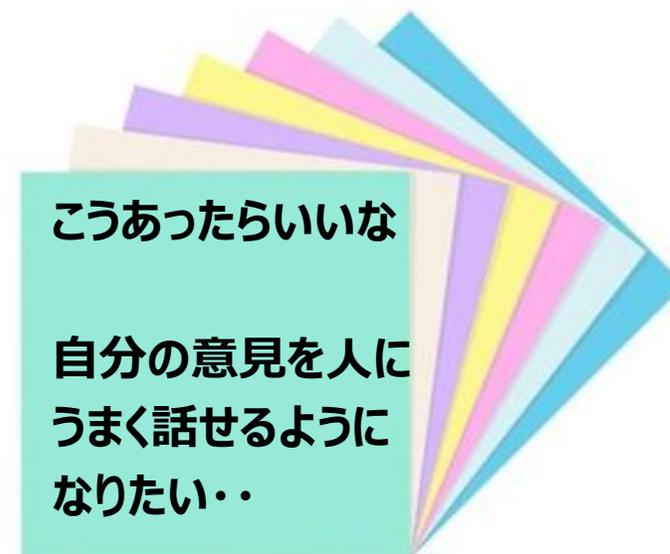
自己紹介（1人1分程度）：10分

自由に意見交換：30分

- 参加のきっかけ
- FCPで興味をもったこと
- FCPで話し合いたいこと
- 社内／取引相手先／消費者とのやりとりで困ったこと
- こうあったらいいなと思うこと
- 最近面白いと感じていること
- 今、やり方を模索していること など

**付箋紙に書いて模造紙に適宜貼り付けていく**

※発表者、第2回目リーダー・サブリーダーを決定しておく



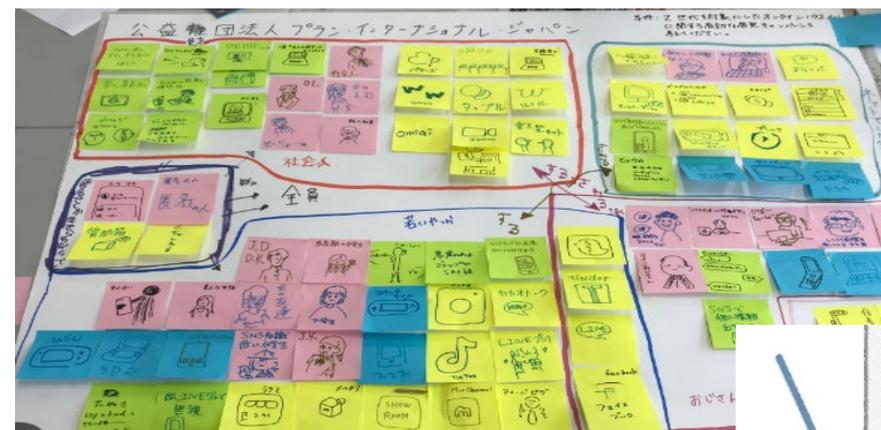
# 第1回FCP 若手フォーラム

## チームごとの交流

チーム発表 : 各チーム3分

**チームで出た意見・考えを全体に共有する**

**発表は模造紙を有効に活用する**



## 第2回若手フォーラム 事前課題

第2回若手フォーラム：令和 7年 7月15日

総合ファシリテーター  
山下安信  
株式会社 フードサニテーション78

# 第2回若手フォーラム 事前課題

## 第2回若手フォーラム（7月15日）

テーマ：食の安全・安心について考える

《食の安全・安心に関わるリスクアナリシス活動について》

講演1	食の安全はリスクを正しく理解することから	食の安全と安心を科学する会（SFSS） 理事長 DVM, Ph.D. 山崎 毅 先生
講演2	ニッポンの取り組みについて（仮）	(株)ニッポン 品質保証部 齋藤 浩二 部長

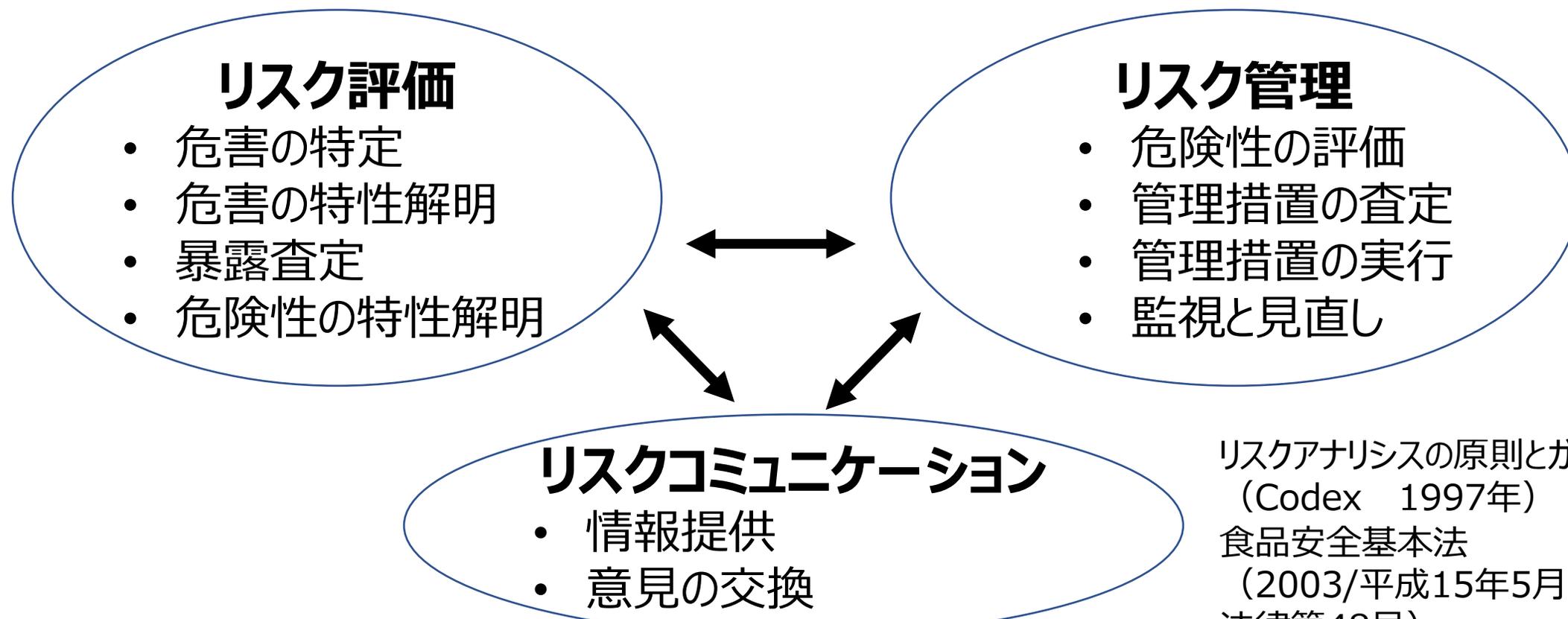
ワークショップのねらい：

- 食品業界における食品安全や品質保証に関わる仕組みとその背景を理解する
- 参加者の所属先や職務から、その仕組みとの関わりと、自分の考えや意見を話し合う
- 参加者が直接/間接的に関わるフードチェーンの中で、どのように協力しまたは支援することで、消費者に対する食の安全が確保できるのかを話し合う

## 第2回若手フォーラム 事前課題

### 食品安全のリスクアナリシス（リスク分析）

- 食品のリスクを科学的に評価し、適切な管理措置を講じるための一連のプロセス
- 食品衛生・安全管理において国際的にも広く採用されている枠組み



リスクアナリシスの原則とガイドライン  
(Codex 1997年)  
食品安全基本法  
(2003/平成15年5月23日  
法律第48号)

# 第2回若手フォーラム 事前課題

## 食品安全のリスクアナリシス（リスク分析）

	リスク分析	リスク管理	リスクコミュニケーション
国	農薬の安全性を科学的根拠に基づいて評価する	リスク評価に基づき、農薬の使用や流通に関するルールを設定・運用する	農薬の安全性や規制内容について、消費者・生産者・業界・行政・専門家間で情報を共有する
企業	自社の製品や工程に存在する病原微生物の危険性とリスクの大きさを評価する	リスク評価に基づいて、微生物リスクを低減・排除するための管理措置を講じる	従業員・取引先・消費者と微生物リスクに関する情報を共有・対話する
個人	個人レベルでの健康食品のリスクや自分にとっての影響を見極める	リスクを評価したうえで、健康食品を安全に使用するための判断と行動を行う	自分だけで判断せず、家族・医療従事者・友人などと情報を共有し、客観的な意見を得る

チーム

記入者：

食の安全・安心に関わるリスクアナリシス活動について考えてみましょう

**1.食の安全・安心に関わるリスクの関心事を5つあげてみましょう**

**2.1.の関心事から1つ、「自社/組織」または「他社」の取り組みで（A）リスク評価、（B）リスク管理、（C）リスクコミュニケーションについて具体例をあげてみましょう**

**3.2.の「自社/組織」または「他社」のリスクアナリシス活動から、「強み」と「機会点」について分析してみましょう**

X チーム

記入者： 大里 綱与

記入例

食の安全・安心に関わるリスクアナリシス活動について考えてみましょう

## 1. 食の安全・安心に関わるリスクの関心事を5つあげてみましょう

**病原微生物、食品添加物、残留農薬、放射性物質、PFAS**

## 2. 1.の関心事から1つ、「自社/組織」または「他社」の取り組みで (A)リスク評価、(B)リスク管理、(C)リスクコミュニケーション、(D)その他 について具体例をあげてみましょう

**他社 病原微生物**

(A) リスク評価：「冷凍塩麴唐揚げ」の鶏肉（原材料）由来の病原微生物（危害要因物質）を管理できる条件を決めている

(B) リスク管理：製造工程の中で加熱・殺菌条件を維持（管理）する

(C) リスクコミュニケーション：製造の作業員に作業手順をトレーニングする、食品表示や商品情報の中で、消費者（お客様）に使用方法（解凍後加熱調理すること）を伝える

(D) その他： リスク管理の変更に合わせて、HACCP計画（衛生管理計画）を更新する

## 3. 2.の「自社/組織」または「他社」のリスクアナリシス活動から、「強み」と「機会点」について分析してみましょう **他社 病原微生物**

**「強み」**：製品ごとの「リスク」と品質の高い「原材料」を意識することで、品質を向上することができる

**「機会点」**：原材料の調達事情が変化する中で、鶏肉（原材料）の規格の変更に対応していく

Y チーム

記入者： 山崎 毅

記入例

食の安全・安心に関わるリスクアナリシス活動について考えてみましょう

## 1. 食の安全・安心に関わるリスクの関心事を5つあげてみましょう

食物アレルギー、賞味期限／消費期限、原料原産地表示、残留農薬、PFAS

## 2. 1.の関心事から1つ、「自社/組織」または「他社」の取り組みで (A)リスク評価、(B)リスク管理、(C)リスクコミュニケーション、(D)その他 について具体例をあげてみましょう

自社 残留農薬

(A) リスク評価：原料農作物の栽培時に使用した農薬と、そのリスク評価データ（ADI、ARfDなど）を確認。原材料規格に残留農薬基準を組み込む。

(B) リスク管理：年に1回の原材料受け入れ時モニタリング調査（残留農薬分析）を実施する

(C) リスクコミュニケーション：消費者（お客様）のお問い合わせに対して、リスク評価・リスク管理の状況やデータについて誠実に回答し、心配無用であることをお伝えする。

(D) その他：農薬の使用状況が変更するたびに、リスコミ内容を更新する

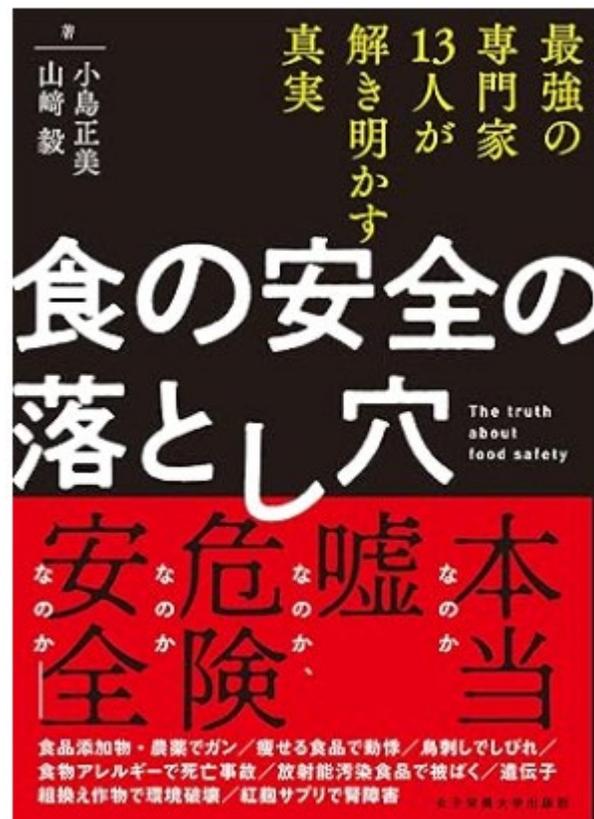
## 3. 2.の「自社/組織」または「他社」のリスクアナリシス活動から、「強み」と「機会点」について分析してみましょう

自社 残留農薬

「強み」：製品ごとに残留農薬の「リスク評価」「リスク管理」「リスコミ」のフローが確立している。

「機会点」：残留農薬のモニタリング試験において基準値を超えた場合の対応が、未確立であいまい。

# 食の安全・安心について考える



## 食の安全の落とし穴: 最強の専門家13人が解き明かす真実

小島正美、山崎毅 著  
女子栄養大学出版  
1400円 (税別)

- 食中毒から食品添加物、食物アレルギー、放射能まで一般市民の素朴な食品安全のギモンについて1冊で幅広くフォロー。
- 解説は、食品安全の各ジャンルのトップランナー13人。最先端かつ信頼できる食のリスクの真実がつかめます。

### 【最強の専門家13人】

- 1 食品添加物 畝山 智香子 国立医薬品食品衛生研究所 客員研究員
- 2 食品の残留農薬 原田 孝則 (一財)残留農薬研究所 理事長
- 3 遺伝子組換え食品 田部井 豊 東洋大学 食環境科学部 客員教授
- 4 食の放射能汚染 田内 広 茨城大学 理学部 教授
- 5 ノロウイルス 野田 衛 国立医薬品食品衛生研究所 客員研究員
- 6 カンピロバクター 中村 寛海 (地独)大阪健康安全基盤研究所 主幹研究員
- 7 リステリア 五十君 静信 東京農業大学 食品安全研究センター長 教授
- 8 サルモネラ 大河内 美穂 キューピー株式会社 品質保証本部食品安全科学センター次長
- 9 アニサキス 杉山 広 国立感染症研究所 客員研究員
- 10 食物アレルギー 海老澤 元宏 国立病院機構相模原病院 臨床研究センター長
- 11 トランス脂肪酸 後藤 直宏 東京海洋大学 海洋生命科学部学部長 教授
- 12 健康食品 宗林 さおり 岐阜医療科学大学 薬学部 教授
- 13 食品のリスクアセスメント 山本茂貴 内閣府食品安全委員会 委員長

**第1回若手フォーラム  
ワークショップ<sup>2</sup>  
（チーム間交流（名刺交換会））**

令和 7年 6月 3日

FCP事務局

# チーム間の交流（名刺交換）

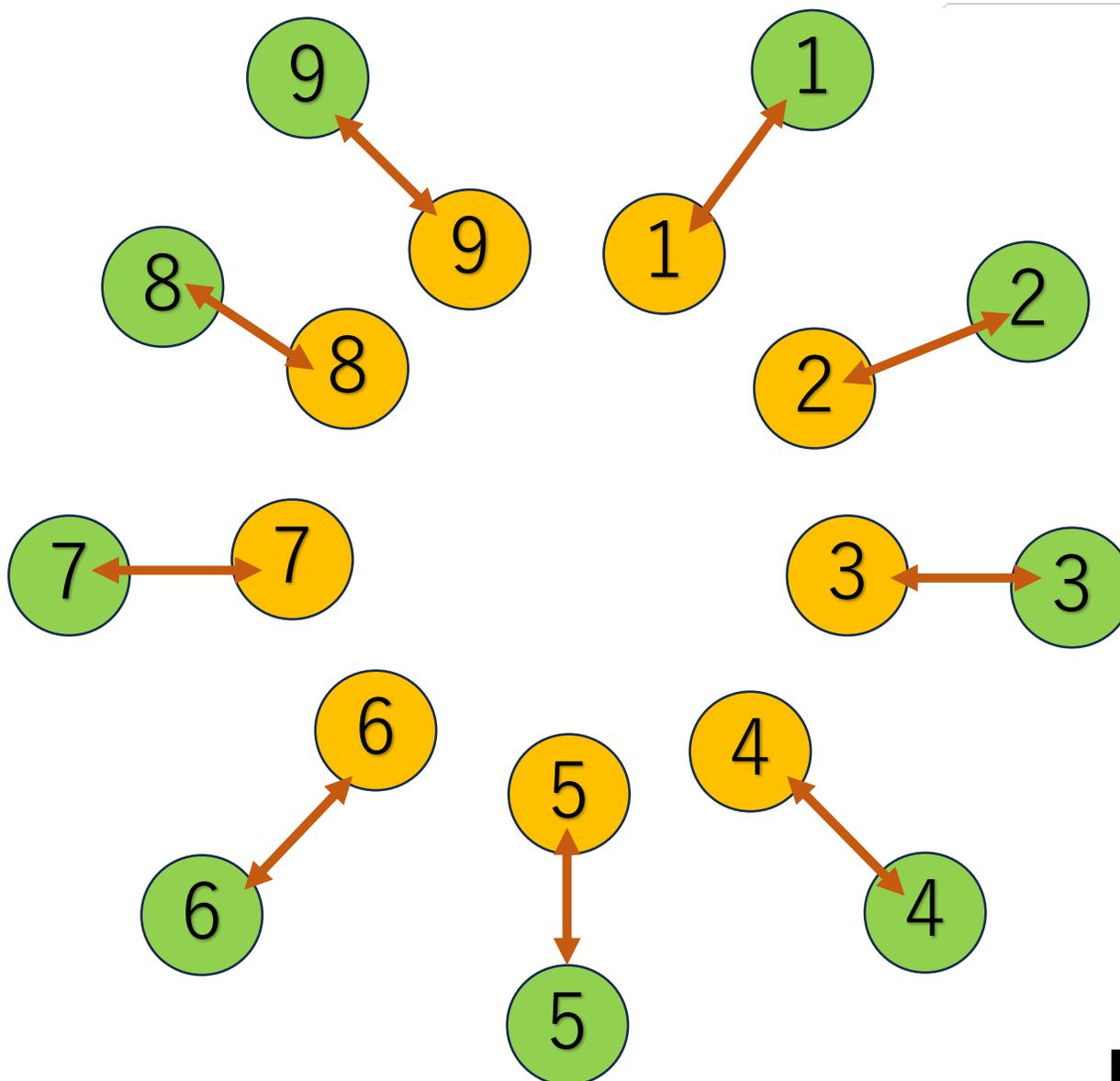
2チームで2重の輪を作り、チーム同士で名刺交換します

・ご挨拶のお時間はお一人あたり30秒です。  
20秒で呼鈴を1回、30秒で2回鳴らします。

60名以上の方とお名刺交換をしますので、  
時間厳守をお願いいたします。

・30秒で呼鈴が2回鳴ったら、外側のチームの方は時計回りに一人分ずれてください。

・1周し、9人と名刺交換が終わったら、交換相手のチームを入れ替えます。



# チーム間の交流（名刺交換）



自分のチーム		A	B	C	D	E	F	G
交換場所		1 (内側)	2 (内側)	3 (内側)	移動	移動	移動	移動
1周目	交換相手	D	E	F	A	B	C	チーム内
2周目		E	F	G	チーム内	A	B	C
3周目		F	G	D	C	チーム内	A	B
4周目		G	D	E	B	C	チーム内	A



自分のチーム		A	B	C	D	E	F	G
交換場所		1 (内側)	移動	移動	2 (内側)	移動	3 (内側)	移動
5周目	交換相手	B	A	チーム内	E	D	G	F
6周目		C	チーム内	A	G	F	E	D



自分のチーム		A	B	C	D	E	F	G
交換場所		移動	1 (内側)	移動	2 (内側)	3 (内側)	移動	移動
7周目	交換相手	チーム内	C	B	F	G	D	E

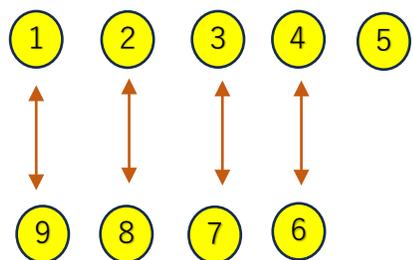
・7チームありますので、6チームで3つの2重の輪をつくり、残りの1チームはチーム内での名刺交換のお時間となります。

・4周目までは、A、B、Cのチームは動かず（固定）、D、E、F、Gのチームが移動し、名刺交換します。

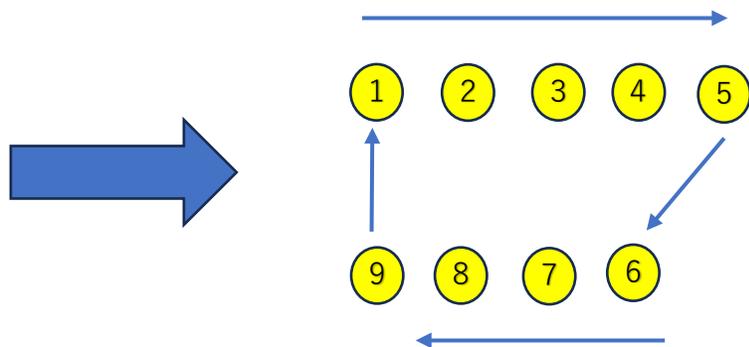
・5周目・6週目はA、D、Fのチームは動かず（固定）、B、C、E、Gのチームが移動し、名刺交換します。

・7周目は左の通りです。

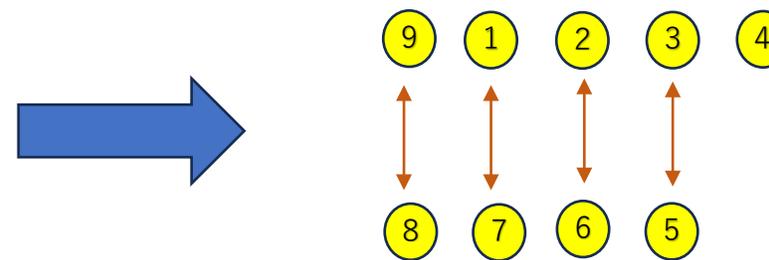
# チーム内の交流（名刺交換）



5人对4人で並びます。  
正面の方と名刺交換を  
します。  
(⑤の方は待ち時間)



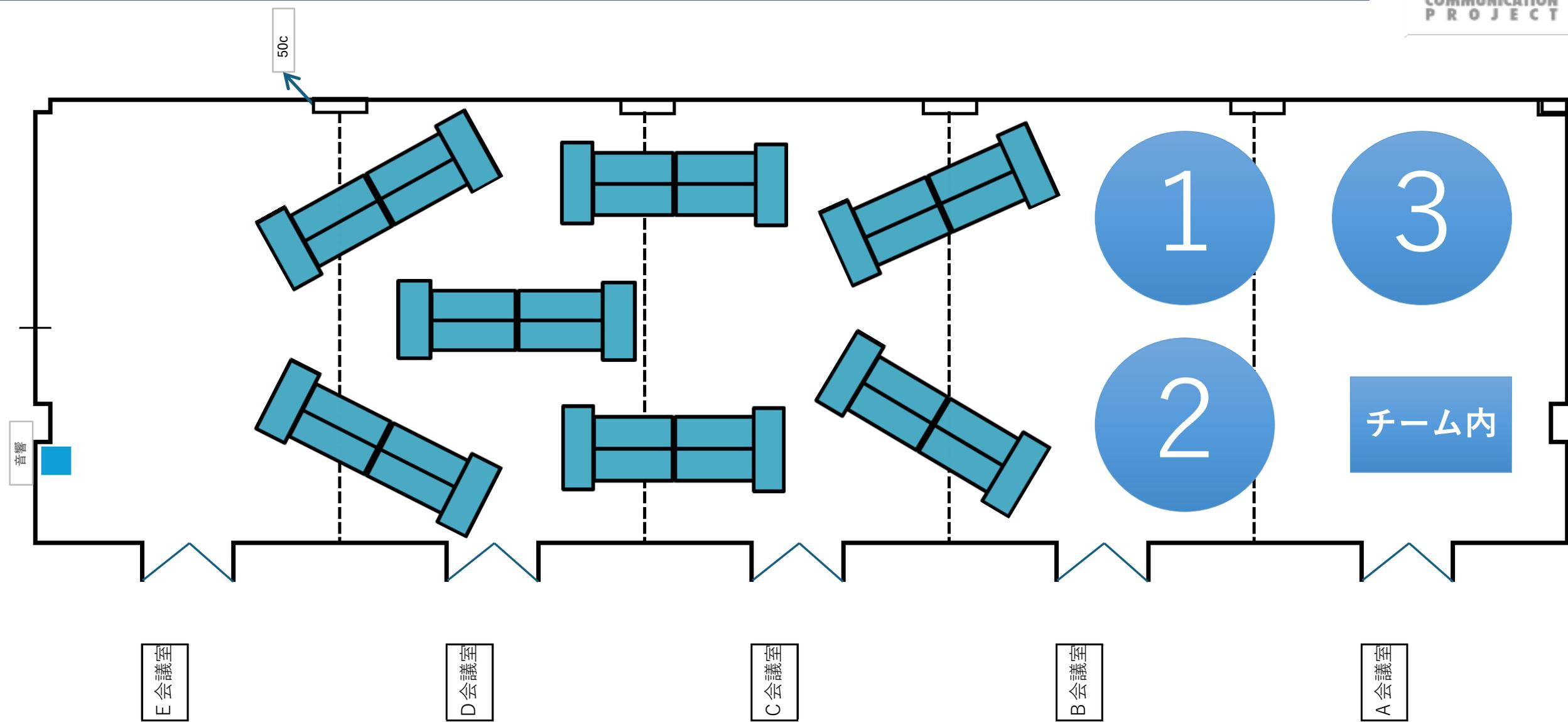
30秒で呼鈴が2回鳴っ  
たら、時計回りにずれま  
す。



正面の方と名刺交換を  
します。  
(④の方は待ち時間)

繰り返して、全員（8人）と名刺交換します。

# 名刺交換の場所



# 第1回若手フォーラム ワークショップ2 (チーム間交流 (名刺交換会))

## (参考) 名刺交換の仕方

- 両手で扱う
- 文字が隠れないように端を持つ
- 折り曲げたり、汚したりしないようにする
- 相手の名刺は胸より上の位置で扱うように心掛ける

## ファシリテーターからのアドバイス

- あとで名刺の片隅に聞いたことをメモしておく  
と思出しやすい
- 特に同業の参加者とは面識をもっておくこと



# 【再投影】 名刺交換のチーム組

自分のチーム		A	B	C	D	E	F	G
交換場所		1 (固定)	2 (固定)	3 (固定)	移動	移動	移動	移動
1周目	交換相手	D	E	F	A	B	C	チーム内
2周目		E	F	G	チーム内	A	B	C
3周目		F	G	D	C	チーム内	A	B
4周目		G	D	E	B	C	チーム内	A



自分のチーム		A	B	C	D	E	F	G
交換場所		1 (固定)	移動	移動	2 (固定)	移動	3 (固定)	移動
5周目	交換相手	B	A	チーム内	E	D	G	F
6周目		C	チーム内	A	G	F	E	D



自分のチーム		A	B	C	D	E	F	G
交換場所		移動	1 (固定)	移動	2 (固定)	3 (固定)	移動	移動
7周目	交換相手	チーム内	C	B	F	G	D	E

令和7年 6月3日

# FCP若手フォーラム

## 1. 提出物

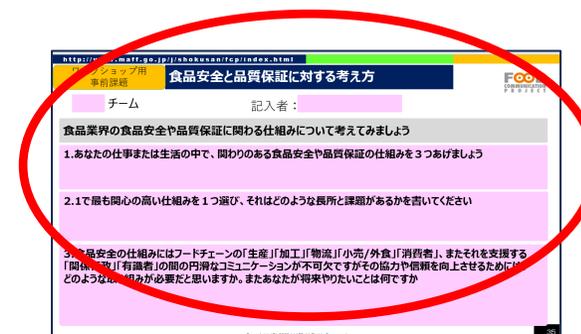
### (1) 個人目標 (2枚のうち1枚)

提出期限 6月27日  
提出先 FCP事務局



### (2) 第2回事前課題 (1枚)

提出期限 7月4日  
提出先 チームリーダー



2. 第2回若手フォーラム 7月15日 (火) (予定)